

郎兵衛らの奔走努力によるものである。しかしこれをもつてしても洪水を根絶することは不可能だったことは、明治四十三年、昭和十三年、昭和十六年と大洪水があったこととわかる。

そこで、昭和十四年から桜川改良工事が進められ河巾の拡張と直線化、護岸工事によつて再び水禍に見舞われることのないことを期し、昭和三十四年完成したものである。たしかにこの工事の完工によつて水禍から土漕は救われるかもしれないが、このため桜川は桜の名所としての価値はなくなつたばかりでなく、砂利の乱堀、工場汚水などの新たな公害問題が持ち上がりいつまで釣りができるか、せつかく釣れた魚も食用にはならないなどというおそれがいつかはやつてくるかも知れない

私たちは、この心のふるさと桜川を、祖先から引きついで桜川を美しい姿で子孫に残したい。又残すべきである。そして私たちの子孫が、サイクリングや歩きで、この川の堤防づたいにさかのほり、沿岸に点在する史跡名勝をしのぶことができるような時期が速かに到来することを念願して本稿を起した。便宜上、上流の方から下

流の方に向つて書いてゆくことにする。

1 月山寺。岩瀬町小嶋にある天台宗の名刹

桓武天皇延暦十五年に法相宗として徳いつ和尚の開基永享二年天台宗となる。江戸時代寺領六十石、十万石の格式を与えられ、中本山の寺格を有す。寺宝も数多いが国重要文化財、網代笈（いわゆる弁慶の笈）を初めとして彫刻、絵画、厨子、五鈷杵等何れも県文化財に指定されている。

2 磯部の桜 前述の通り古歌に歌われた桜の名所、今日でも老桜多く名木が多い。天然記念物になっている。

稲村神社は、いわゆる磯部大明神でその篇額は後水尾天皇の宸筆である。祭神は、木華咲耶姫、天手力雄命、天照大神である。この附近の桜川は巾も二米位しかないが謡曲「桜川」の舞台で人買にさらわれた娘桜子を尋ねてはるばる日向（今の宮崎県）から尋ねて来た母親が狂女となつてしきりに桜の花びらをすくつていたその川である。たまたま磯部寺の侍僧が弟子となつていた桜子と花見に来ていて図ずも再会となり故郷に帰るといふ筋書で謡曲の中の青柳の系桜は今日も残っている。（以下次号）